

令和6年度 芸術資源活用プロジェクト

採択プロジェクト一覧

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
東京藝術大学と打刃物文化の関係	梶原 康紀 (東京藝術大学美術研究科工芸専攻素材造形 (木工芸) 修士2年)
プロジェクトの概要	
<p>私達の制作活動に欠かせない手道具の文化は、職人の引退や後継者不足によって著しく衰退している。本プロジェクトの目的は、東京藝術大学で使用されている木工手道具を始めとする打刃物に焦点を当て、その使用状況と保存状態を詳細に調査し、資料を残して未来に打刃物文化を繋げる事である。取材は専攻を横断して行い、刃物店等の関係者からも情報を集め、記録集の発行や広報活動を通じて、その成果を広く伝える事を目標とする。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
能楽のクリエイティブ・アーカイブ-東京藝術大学邦楽科第三講座を対象に-	澤田 澄 (東京藝術大学大学院音楽研究科邦楽専攻 能楽囃子小鼓2年)
プロジェクトの概要	
<p>本プロジェクトの目的は、藝大生をはじめ多くの方により身近に能楽を体感する機会を提供することである。実施期間内には、初心者向けの補助教材を作成し、学内副科稽古で使用した受講生からのフィードバックを受けて改善する。また、能舞台・面・楽器等の3Dスキャンを行い、ウェブサイトで公開する。取得した能舞台の3Dデータを使用し、演奏会・展覧会等を仮想空間で行うなどの活用も検討している。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
「日本のパイプオルガン演奏の先駆者・眞篠俊雄」の楽譜コレクション～演奏プロジェクト～	千田 寧子 (東京藝術大学音楽学部オルガン科・ 教育研究助手)
プロジェクトの概要	
<p>大正から昭和初期にかけて東京音楽学校のオルガン演奏を牽引し、東京音楽学校にパイプオルガンが導入された時にはオルガン教授の立場であった眞篠俊雄。彼が1920年代にベルリン留学した際に入手したと思われる楽譜群がオルガン研究室に保管されている。当時のオルガン音楽を幅広くコレクションしたと考えられるそれらが、実際にどのような響きを映すものなのかを探る、というのがこのプロジェクトである。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
ジグでタぐる ～木材加工における治具の整理と活用～	林 奈緒子 (東京藝術大学美術学部共通工房木材造形工房・ 教育研究助手)
プロジェクトの概要	
<p>素材の加工に向き合う際、我々は道具や機械を駆使するがそれらに加えてもう一つ治具なるものが挟まれることはままある。本プロジェクトではこの治具に焦点を当てる。治具の制作には手間を要するも加工後に残るものはただ作品ばかりでつくるという行為において同様にかけてきた時間もその現れ方は全く異なる。この治具なるものとあそんでみたい。個々人が独自に進化させてきた知見を治具という観点において整理し今後の活用に向けていく。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
美術作品の表現と損傷の境界について —現代美術作品の保存に関する研究	松永 亮太 (甲南女子大学文学部メディア表現学科・講師)
プロジェクトの概要	
<p>本プロジェクトは、大学美術館が所蔵する学生制作品を中心に現代美術の保存が抱える根本問題の一つ「表現と損傷の境界」の考察を目的とする。近代以前の美術作品は完成されたモノとして提示され、物質的な変化や欠損は”損傷”と判断されてきたが、表現が大幅に拡張された現代美術では破壊表現や変化をコンセプトに含む作品も少なくない。本テーマを通して、現代美術に適した保存理論の基礎構築を目指す。</p>	

プロジェクトのタイトル	申請代表者（所属・職名／学年）
Le Rire 表紙展 ～風刺画を紐解く～	渡辺 愛 (東京藝術大学音楽学部音楽環境創造科・ 非常勤講師)
プロジェクトの概要	
<p>前回の「Le Rire表紙展～渡辺恂三の集めた夢～」では、東京藝術大学附属図書館の所蔵する雑誌ル・リールを旧蔵者・渡辺恂三の作品と共に展示した。本事業はその継続企画であり、前回の展示からさらに的を絞ってカリカチュアをテーマとする。カラー雑誌というメディアにおいていかに風刺が描かれていたか。技法の開拓にどう寄与したか。風刺画が映す当時の人間を紐解き、アートとしての風刺画を再検討する機会としたい。</p>	

※ 五十音順、所属等は2024年4月現在のもの